

『附属平野中学校に赤ちゃんを招こう ―ふれあい体験で“いのち”を実感する―』

(代表者) 附属平野中学校 教諭 (社会科) 堀口 健太郎
(分担者・協力者) 附属平野中学校 教諭 (家庭科) 今治 麻衣子

- 目的
- ・赤ちゃんとのふれあい体験を通して、中学生が“家族愛”を実感し、“生命尊重”の重要性を理解する。
 - ・保護者から、子育ての楽しさや難しさを聞くことで、現代社会における子育ての課題や、男女が分け隔てなく子育てに関わる大切さに気づく。
 - ・「道徳」「社会科」「家庭科」の学習内容と関連して授業を展開することで、深い学びを実現する。
 - ・附属学校が地域の子育てサークル等と連携を図ることで、生徒の地域に対する理解を深まるとともに、附属学校や教育方針について、地域住民に伝える。
- 実施形式等
- | | | | | | | |
|-------|---|-----|-------|----|------|-----|
| 平成28年 | ① | 11月 | 5日(月) | 1限 | 1年2組 | 40名 |
| 平成29年 | ② | 2月 | 7日(火) | 4限 | 1年1組 | 40名 |
| | ③ | 2月 | 8日(水) | 4限 | 1年3組 | 40名 |
- 実施場所 大阪教育大学附属平野中学校 体育館内柔道場 ・ 多目的室(控室)
- 協力団体 常磐会学園こどもセンター

【実践報告】

○実践理由

少子化で子どもが減少する中、生徒が日常的に乳児(以下赤ちゃん)や子育て中の保護者と関わる機会は極めて少ない。そこで、本事業は中学校に赤ちゃんと保護者を招き、乳児とのふれあい体験や保護者の方との交流を通して、中学生が“いのち”を実感し、家族について考えを深める機会を設けようと考えた。

カリキュラムの中の位置付けは、「総合的な学習の時間」や、技術家庭科の家庭分野にある単元「保育」で設定するのではなく、「道徳」の授業の一環として展開した。赤ちゃんという存在は、大人からの絶対的な保護が必要であり、赤ちゃんとのふれあい体験は、理屈抜きで“いのち”の尊さ、はかなさを感じることと結び付く。その実感から“いのち”や“家族”について考え、今後の自分の行動として、より良く実践できるような力を身につけさせたいと考えた。

○道徳の授業について

平成31年度より学習指導要領が改訂され、道徳は“特別の教科 道徳”として改められる。現在はこの移行期間であるが、附属平野中学校でも教科化に向けて研究を進めている。道徳が特別の教科化されるにあたっては、従来の読み物資料主体の道徳授業はこれまでどおり推進する一方で、職場体験活動や、ボランティア活動のような「体験活動」を充実させ、生徒の日常生活に活かされるような道徳授業にすることが求められている。また、ワークショップのような問題解決型の道徳授業も行うことが求められている。

これらのことから、赤ちゃんとのふれあい体験は、道徳的实践力を高める教材(資料)としても適切であると考え、授業の題材とした。

○授業実践について

- 1 限目** 1 1月 5日（土）1限 1年2組（40人）
 ※本校研究発表会の授業公開と兼ねる。
 授業協力： 赤ちゃん6名 保護者10名
- 2 限目** 2月 7日（火）4限 1年1組（40名）
 授業協力： 赤ちゃん5名 保護者5名
- 3 限目** 2月 8日（水）4限 1年3組（40名）
 授業協力： 赤ちゃん8名 保護者8名

<学習内容>

- ・導入・・・「自分が赤ちゃんとして生まれた時、何グラムだったか知っていますか？」
- ・体験活動
 - 赤ちゃんが保護者とともに各班（8名程度）に入り、自己紹介、その後ふれあい体験（抱っこさせてもらう）を行う。生徒は抱っこした時の感触や感じたことをしっかり覚えておく。
- ・考え深める活動
 - 赤ちゃんを抱っこさせてもらった時、どんなことを感じたか、思ったかをポジティブなもの、ネガティブなものに分けてワークシートに書き込む。
 - 班の中で意見を交流し、「赤ちゃん」とはどんな存在かを一つの文章にまとめる。班の中で意見を交流し、赤ちゃんについて重要なキーワードを選んでいくうちに“いのち”についてや家族についての考えが深まっていく。
 - 全体の前で文章を発表する。

※授業モデル図



本事業での授業実践では、体験でしか得られない要素を授業の中で活かす道徳授業を行った。赤ちゃんとのふれあいを実際に体験し、この体験を道徳の資料として活用した。体験活動を道徳の授業に活用する場合、学級活動や総合的な学習の時間の中で体験したり経験したりした事について、その道徳的価値を確認し、考える授業を行うことがあるが、本来道徳の授業は1時間の完結型が基本であり、毎回のように複数時間連続で実施することは困難である。また、何かを体験した時の感動は生徒個人にとって特に大きな道徳的変容であり、これは読み物資料のように読み返して何度も噛み締めることもできず、後日になると感動は薄れてしまう。体験して感じたことをすぐに自分の中で深められるように、1時間の授業で完結する形で実施した。

赤ちゃんを抱っこするのみというシンプルな体験ではあるが、これは命そのものを自分の手の中に抱く大きな体験である。多くの生徒が「かわいい」と反応する反面、ほとんどの生徒が初めての体験であり、抱っこすることに抵抗がある生徒や、怖がる生徒もいると思う。盛り上がる体験活動の中で、実は様々な思いが抱かれている。発問はポジティブ（肯定的）なものやネガティブ（否定的）ものに分けて考えさせることで、両面の考えを出しやすくすると共に、作成する文章でもネガティブな要素を入れさせる。赤ちゃんとはこんな存在であるという文章を、班で考えさせることが中心発問になるが、ポジティブ、ネガティブ双方の意見を整理し、何が大切な言葉かを選んでいく過程で、実は赤ちゃんは大切な存在であり、生命に対する畏敬や大切さを自発的に感じさせたい。また子どもを産み、育てる偉大さにも考えが及ぶことができれば、非常に効果的な体験活動（資料）であると言える。

○授業当日の様子



【考察】

(1) 「赤ちゃん」と「男女共同参画社会」について

“赤ちゃん”は原則として1歳未満の乳児であるが、今回赤ちゃんにこだわった理由は、自分で歩くことができないからである。(実際には成長の個人差によって1歳未満でも自分で歩くことができる赤ちゃんがいる)自分で歩けない、すなわち最大限の保護が必要な“いのち”であり、だからこそ抱っこすることに意義があると考えた。しかし、実際には頸が据ってから1歳未満の赤ちゃんは地域にもそれほど多くなく、さらに中学生に抱っこされることに抵抗を感じずに来ていただく家庭は少なかった。また、教室や会場の衛生面や生徒の健康状態にも気を遣う必要があった。

今回1回の授業で5組以上の赤ちゃん・保護者に来ていただいたが、赤ちゃんに個人差があり、すぐに泣いてしまったり、寝てしまったり、直前に発熱等で休みになるなど、こちらが意図する状態とは限らないと考える必要がある。簡単に「赤ちゃんを集める」ことはできないことがわかった。

男女共同参画社会という言葉は、実際に社会人になっていない中学生には、想像することが難しい。また1年生が対象の授業でもあったため、ジェンダーの理論や多様性について学習するのではなく、“いのち”とは何かを考え、家族や家庭の役割について考える機会にしたかった。未来の家庭生活を思い描く時に、男女が協力して子育てや家庭生活を行う男女共同参画社会の考え方推進に寄与すると考える。授業後の感想文では“いのち”についての記述や感想も多かったが、「自分がここにいるのは両親のおかげである」と行った内容や「子どもにとって親の存在はとても大変なのだと感じた」と言った記述が見られた。家族についても考えが深まった証拠であり、この事業の効果を感じることができた。

(2) 道徳授業との連携について

道徳授業で赤ちゃんとのふれあい体験を取り入れることは前述(実践報告「道徳授業について」)のとおりである。道徳の授業は、何らかの事象に対して、自分を振り返り、考えを深めることが必要である。そのためには中心となる発問が必要であり、単に感想を交流するのでは効果が薄い。今回はネガティブ、ポジティブの両面で感想を考え、文章を考える時には、どちらの要素も含めるように指示をした。生徒は、ポジティブな面で「かわいい」「いやされる」と多く意見を出していたが、ネガティブの面では「壊れそう」「こわい」という感想があった。「怖い」けど“かわいい”とはどのような意味なのか、それをさらに考えさせることで、目的でもあった“いのち”について深めることができたと思う。“こわい”は「それだけ大切なものである」ということであった。

今後、道徳はこのような体験から深めていく授業が増えていくと考える。道徳の授業のために、体験活動を一から創っていくのは大変であるが、学校行事や普段から実施している取り組みの道徳的価値を確認するような授業であれば、それほど困難ではない。

(3) 地域の方々との連携について

今回では外部の協力機関として、常磐会学園こどもセンター(以下こどもセンター)との連携を行った。各地域にある保育園に併設されている子育て支援センターには、子育てサークルがたくさんあるが、本校より遠いこともあって、すぐ近くのこどもセンターに協力を要請した。こどもセンターでは未就学児を対象に、保護者の方と共に遊んだり、絵本を読んだりして遊ぶ、また保護者同士のコミュニケーションができる場である。趣旨の説明に行き、職員の方と協議をしながら募集をお願いした。

授業は3回実施したが、1回目に来ていただいた方は全てもう一度参加を希望され、協力していただけた。普段の中学生がどのような表情をしているのか、道徳の授業はどのようなものか、実際赤ちゃんにどう接するのかに非常に興味を持っておられ、非常に

良い経験になったとの感想をいただいた。後日には生徒の感想や、授業の様子をビデオや写真で紹介し、地域の方々が本校のことを理解していただくことにもつながると感じた。

(4) 全体を通じて

生徒に“いのち”についての様々な視点から考えさせて意見を交流させることは、人権意識を向上させ、男女共同参画社会を推進する上で有効であると考えます。また、授業では体験を取り入れ、生徒は楽しく積極的に授業に参加でき、よく考える機会になったと思う。これらの結果を踏まえ、中学校生活をさらに充実させる活動につなげていきたい。

道徳 学習指導案

大阪教育大学附属平野中学校
指導者 堀口 健太郎

- 1 指導日時 平成 28年 11月 5日（土） 1限
29年 2月 7日（火） 3限 8日（水） 3限
- 2 指導場所 大阪教育大学附属平野中学校 柔道場（体育館内）
- 3 指導学級 1年全学級（生徒数各 40名）
- 4 主題名 3－（1） 生命の尊重
- 5 資料名 『赤ちゃんが来た！』
- 6 本時の教材観

平成31年度より学習指導要領が改訂され、道徳は“特別の教科 徳”として改められる。現在はこの移行期間であるが、附属平野中学校でも教科化に向けて研究を進めている。道徳が特別の教科化されるにあたっては、従来の読み物資料主体の道徳授業はこれまでどおり推進する一方で、職場体験活動や、ボランティア活動のような「体験活動」を充実させ、生徒の日常生活に活かされるような道徳授業にすることが求められている。またワークショップのような問題解決型の道徳授業も行うことが求められる。

本時では、体験でしか得られない要素を授業の中で活かす道徳授業を提案する。赤ちゃんとのふれあいを実際に体験し、この体験を道徳の資料として活用する。体験活動を道徳の授業に活用する場合、学級活動や総合的な学習の時間の中で体験したり経験したりした事について、その道徳的価値を確認し、考える授業を行うことがあるが、本来道徳の授業は1時間の完結型が基本であり、毎回のように複数時間連続で実施することは困難である。また、何かを体験した時の感動は生徒個人にとって特に大きな道徳的変容であり、これは読み物資料のように読み返して何度も噛み締めることもできず、後日になると感動は薄れてしまう。体験して感じたことをすぐに自分の中で深められるように、1時間の授業で完結する。

赤ちゃんを抱っこするのみというシンプルな体験ではあるが、これは命そのものを自分の手の中に抱く大きな体験である。多くの生徒が「かわいい」と反応する反面、ほとんどの生徒が初めての体験であり、抱っこすることに抵抗がある生徒や、怖がる生徒もいると思う。盛り上がる体験活動の中で、実は様々な思いが抱かれている。発問はポジティブ（肯定的）なものやネガティブ（否定的）ものに分けて考えさせることで、両面の考えを出しやすくすると共に、作成する文章でもネガティブな要素を入れさせる。赤ちゃんとはこんな存在であるという文章を、班で考えさせることが中心発問になるが、ポジティブ、ネガティブ双方の意見を整理し、何が大切な言葉かを選んでいく過程で、実は赤ちゃんは大切な存在であり、生命に対する畏敬や大切さを自発的に感じさせたい。また子どもを産み、育てる偉大さにも考えが及ぶことができれば、非常に効果的な体験活動（資料）であると言える。

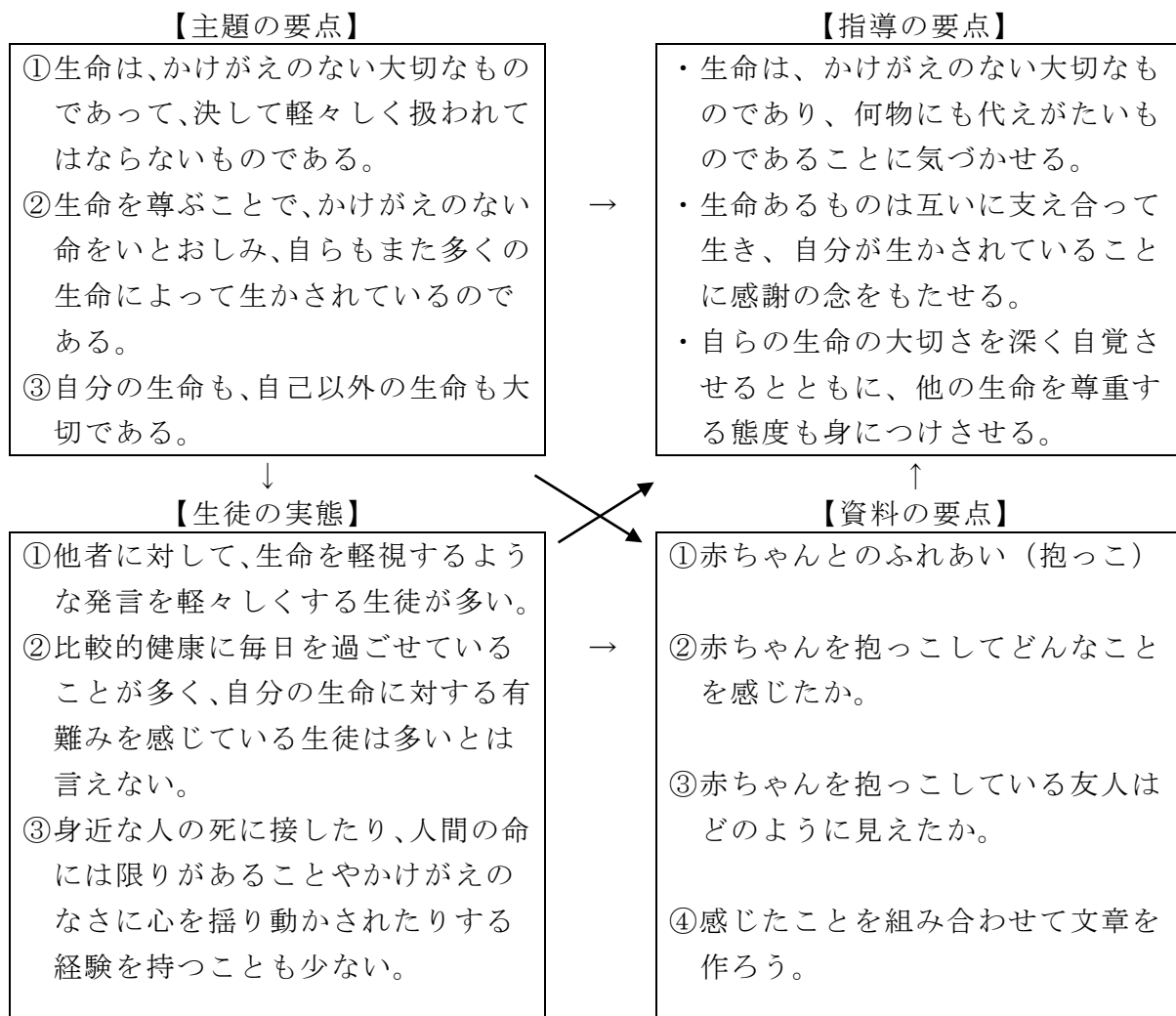
7 本時の指導観 [「考え・確かめ・発動する力を育む」との関連]

考える力: 赤ちゃんを抱っこすることで感じた思いは素直なものである。その後、班の中で文章を考えるときに、他人の意見と比較しながら、自分の生命に対する考えを深めていく。自分と向き合いながら考える力を育みたい。

確かめる力: 赤ちゃんを抱っこすることで、自分にどのような感情が浮かんだのかを振り返る。赤ちゃんとはどのような存在か、班で話し合っって文章を作成する過程で、生命に対する自分自身の考えの確かめ、考えを深める力を育みたい。

発動する力: 今後生活をしていく中で、生命に対して畏敬の念を抱き、自他の生命について尊重しようとする意識を持って行動できる力を育みたい。

8 主題構成の観点 (生徒観含む)



9 本時のねらい

赤ちゃんとのふれあいを通じて、生命の大切さに気づき、自他の生命を尊重しようとする態度を育成する。

10 指導過程

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	○赤ちゃんの時の記憶	○自分が生まれたとき何グラムで生まれましたか。〔3分〕 ・覚えていない ・重かった	・休み時間中に手を消毒する。 ・挙手による発言を促す。
展開	○赤ちゃんとふれあい各班に赤ちゃんと保護者のペアで入ってもらおう。 体験 :赤ちゃんを交代で抱っこする。	○これから赤ちゃんを抱っこしてもらいます。 →1人当たり30秒～1分程度 ・かわいい! ・緊張する! ・思った以上に軽い! →〔12分〕	・保護者の方に赤ちゃんの抱き方の教えてもらう。 ・抱っこしている友人をしっかり見ておくように促す。 ・危険な行為が無いように万全の注意を行う。
	○赤ちゃんを抱っこした時感じたことを振り返る。	発問① 赤ちゃんを抱っこしてどんなことを感じたか、ポジティブ(肯定的)・ネガティブ(否定的)に分けて言葉で表してみよう。 考 〔6分〕→発表 ☆ポジティブ ・あたたかい ・大切なもの ・命 ・守るべきもの ★ネガティブ ・はなない ・怖い ・育てる自信がない	・赤ちゃんにすべて良い印象を持つわけではなく、その部分も正直に書くように促す。 ・ワークシートに記入 ・単語や熟語で考えさせる。 ・なぜそれを感じたか理由も記入する。
	○友人はどのようになっているか。	発問② 赤ちゃんを抱っこしている友人の様子をみて気づいたことはなんですか。 →発表 ・優しい顔をしていた。 ・とても緊張していた。	※ 発問① の発表内容が充実し、時間の不足があるようであれば 発問② はカットする。 ・赤ちゃんを抱っこした時は、どの生徒もいつもと違う表情を見せるのでその理由にも迫りたい。 〔切り返し〕そのような顔になったのはなぜだろう。
	○班ごとに文章を作成	発問③ 赤ちゃんについて感じた言葉を使って、班で話し合ってひとつの文章を作ろう。 確 〔15分〕→用紙に書いて発表	・班のメンバーの意見を組み合わせポジティブな言葉、ネガティブな言葉を最低1つずつ文章に入れる。
終末	○授業の感想	○自分の事を振り返りながら感想を書く。 発	・他の班の発表とも比べ自分の感じたことを書かせる。

11 本時の評価

○命は、有限であり、かけがえのないものであることを自覚できたか。

○自分の命も他者の命も尊重しようとする姿勢を持つことができたか。

『赤ちゃんが来た！』ワークシート

①赤ちゃんを抱っこして何を感じましたか？単語で書いてみよう。

	ポジティブ（肯定的）	ネガティブ（否定的）
単語		
理由		

②赤ちゃんを抱いているときの友人はどんな感じに見えましたか？

③班で赤ちゃんについて感じた言葉を使って文章を作りましょう。私の班は・・・

今日の授業で自分を振り返って感想を書きましょう。

（ 1 年 組 番 名 前 ）

今日の道徳を振り返って

たいへん ← ふうふう → まったく

	5	4	3	2	1
①今日の授業は考えるところがあったか	5	4	3	2	1
②共感・感動したか	5	4	3	2	1
③自分自身をふりかえることができたか	5	4	3	2	1
④新たな発見があったか	5	4	3	2	1
⑤資料がよかったか	5	4	3	2	1